

1、「防衛白書」から見た日本の安全保障環境

*最近 10 年間における国防費の変化 (2000 年から 2009 年)

ロシア : 8.63 倍 (\$41.05bn) / 中国 : 3.92 倍(\$70.3bn)/ 米国 : 2.26 倍(\$690.3bn)/ 韓国 : 2.04 倍(\$24.51bn)/ オーストラリア : 1.97 倍(\$24.2bn)/ 日本 : 0.96 倍(\$52.6bn)/ EU : 1.31 倍

脅威=能力×意図 : ロシア (現状維持国家)、中国 (現状変更国家)

cf. Power Transition Theory/ Status Quo Power vs. Revisionist Power

*中国

「近代化の動向については、今後とも注目していく必要がある」(1996 年→2006 年)

「中国の軍事力近代化が地域情勢および我が国の安全保障に与える影響について、慎重に分析していく必要がある」(2007 年)

「中国の軍事力が地域情勢や我が国の安全保障に如何なる影響を与えていくのかが懸念されるところであり、慎重に分析していく必要がある」(2008 年→2009 年)

「国防政策の不透明性や軍事力の動向は、我が国を含む地域・国際社会にとっての懸念事項であり、慎重に分析していく必要がある」(2010 年)

*中台軍事バランス

「近い将来にも中台の軍事バランスにおける台湾の質的優位に大きな変化を生じる可能性もある」(2003 年→2006 年)

「中台の軍事バランスは中国側に有利な状態へと向かって変化しつつあり、近い将来にも台湾の質的優位に大きな変化を生じさせる可能性もある」(2007 年→2008 年)

「中台の軍事バランスは全体として中国側に有利な方向に変化している」(2009 年→)

*全般

中国は国際的な存在感を高めつつあり、国際社会において、自信を深め、より積極的な姿勢を見せている。

中国国内には、共産党幹部などの腐敗、地域格差、環境汚染、高齢化、少数民族などの問題が存在。

*建国 60 周年国慶節軍事パレード

徒步行進の隊列が減少し、移動式ミサイル、戦闘車両、航空機などの隊列が増加し、早期

警戒管制機や無人機などの先進的な装備品も登場し、軍の機械化および情報化の進展が内外に示された。

*軍事情勢

2009年、陸軍の長距離機動能力、民兵や公共交通機関の動員を含む後方支援能力など、陸軍部隊を遠隔地に展開する能力の検証・向上などを目的として、軍区（瀋陽、蘭州、済南、広州）を横断する演習としては過去最大とされる「跨越 2009」演習を実施した。

2009年1月、ミッドコースにおけるミサイル迎撃技術の実験を実施した。

航空母艦の保有に向けて必要な技術の研究・開発を進めている。

第4世代の近代的戦闘機は着実に増加している。第5世代戦闘機は10～12年後に運用が開始される。

2010年3月に、Y-8早期警戒機が日中中間線付近まで進出。

南シナ海上空では、空軍戦闘機などが空中給油を伴う訓練を実施した。

2011年8月に航空母艦が試験航行を実施した。

*日本近海の活動

2009年6月に駆逐艦等5隻の海軍艦艇が沖ノ鳥島北東の海域に進出。2010年3月に駆逐艦等6隻の海軍艦艇が沖縄本島と宮古島の間を通過して太平洋に進出。2010年4月に駆逐艦、潜水艦等10隻の海軍艦艇が、沖ノ鳥島西方の海域に進出。

cf. 「海軍は近海防御の戦略的縦深を徐々に拡大する」（「2006年中国の国防」）「外洋訓練の常態化」（呉勝利海軍司令員）

*国際活動

中国軍は近年、平和維持、人道支援、災害救助、海賊対処といった非伝統的任務を重視し始め、積極的に海外に部隊を派遣。

中国の国益が国境を越えて拡大することに伴い、国外において国益の保護および促進を図る必要が高まっていることや、大国として国際社会に対する責任を果たす意思を示すことにより、自国の地位を強化する意図がある。

2、軍事バランス

2000年	北朝鮮	韓国	中国	台湾	日本
国防予算	\$1.3bn	\$13.2bn	\$12.6bn	\$10.9bn	\$37.7bn
総兵力 (陸軍)	1,082,000 (950,000)	672,000 (560,000)	2,480,000 (1,830,000)	376,000 (240,000)	236,000 (145,900)
潜水艦	26SSK(22romeo,	8SSK,	71SS(5SSN,	4SSK	16SSK

	4whisky), 45SSI, 21SSC	11SSI,	1SSBN, 4Kilo, 1Song)		
駆逐艦、 フリゲート	3FFG	6DDG, 9FFG	18DDG, 35FFG,	16DDG, 21FFG	9DDG, 34FFG, 12FF
第4世代 戦闘機	16MiG-29,	88F-16	52Su-27, 250J-8,	150F-16, 60Mirage2000	160F-15,

*SSK: Anti-Submarine Submarine/ SSC(Sang-O): Coastal Sub/ SSI(Yugo): Attack Sub

2005年	北朝鮮	韓国	中国	台湾	日本
国防予算	\$1.8bn	\$16.4bn	\$25.0bn	\$7.5bn	\$45.1bn
総兵力 (陸軍)	1,106,000 (950,000)	687,700 (560,000)	2,255,000 (1,600,000)	290,000 (200,000)	239,900 (148,200)
潜水艦	26SSK, 45SSI, 21SSC	9SSK, 11SSI	69SS(1SSBN, 5SSN, 4Kilo, 3Song)	4SSK	16SSK
駆逐艦、 フリゲート	3FF	6DDG, 9FFG	21DDG, 42FFG.	11DDG, 21FFG,	40DDG, 5DD, 9FFG
第4世代 戦闘機	20MiG-29	153F-16,	78Su-27, 76Su-30, 184J-8	146F-16, 57Mirage2000	130F-15, 40F-2

2010年	北朝鮮	韓国	中国	台湾	日本
国防予算		\$24.51bn	\$70.3bn	\$9,78bn	\$52.6bn
総兵力 (陸軍)	1,106,000 (950,000)	687,000 (560,000)	2,285,000 (1,600,000)	290,000 (200,000)	230,000 (138,400)
潜水艦	22SSK, 21SSC, 20SSI,	11SSK, 2SSI	3SSBN, 6SSN, 12Kilo, 3Song, 2Yuan	4SSK	16SSK
駆逐艦、 フリゲート	3FF	10DDG, 9FFG	28DDG, 52FFG,	4DDG, 22FFG,	40DDG, 4DD, 8FFG
第4世代 戦闘機	35MiG-29	164F-16, 39F-15K	134Su-27, 73Su-30,	146F-16, 57Mirage2000	160F-15, 50F-2

			312J-8 120J-10		
--	--	--	-------------------	--	--

*1990年代以降に建造された中国の艦艇は40隻

2010年	国防予算	総兵力(陸軍)	潜水艦	空母、駆逐艦、 フリゲート	第4/5世代 戦闘機
米国	\$693,6bn	1,580,255 (662,232)	14SSBN, 4SSGN, 53SSN	11CVN, 22CG, 56DDG, 21FFG	139FA-22, 739F-15, 1280F-16

3、中国当代国家戦略

中国・ASEAN自由貿易協定(ACFTA)を推進→対中脅威感を静めて対中バランスing/対中封じ込めを防ぐ。 cf. 経済協力枠組み協定(ECFA)

東南アジア・台湾にとって死活的に重要な輸出市場となることで、東南アジア・台湾内部に親中国利益集団を育成する→国際社会における影響力拡大、台湾独立派の弱体化
(中国は台湾の最大の貿易相手:台湾の輸出の40%は大陸へ、台湾の投資の80%は大陸へ、09年台湾の対中貿易は580億ドルの黒字、09年対日貿易は220億ドルの赤字)

経済的相互依存=新朝貢システム:中国に従順である限り、経済的利益を保証される=Win-Winの相互関係⇔(中国が主導的な役割を果たす)「東アジア共同体」
cf. 安全と自立性の交換(同盟)→経済的繁栄と自立性の交換/「以経促統」

「小日本滾出釣魚島」、「收回琉球、解放沖繩」

*中国の変化

「30年前に比べて中国は発展し、中国の要求は変化した。対外的な交流の方法もこれまでとは異なる」(崔立如・中国現代国際関係研究院長)

「一国がその国の『核心利益』を維持する行為を強硬であると見なすならば、公理はどこにあるというのか」(楊外交部長)

cf. 「核心利益」(2009/07/28/米中戦略・経済対話)

- ① 国家の基本制度と安全保障を維持。
- ② 国家主権と領土の一体性を維持。
- ③ 経済社会の持続的安定的発展。

国力の増大した中国→非寛容な中国

海洋権益/ 銃口を突き付けた外交 > 新安全保障観/ 平和的台頭/ 平和的発展/ 棚上げ論 (次世代で解決) / 「韜光養晦」(「四不」: 不対抗、不樹敵、不扛旗、不当頭)

cf. 「韜光養晦 有所作為」: 臥薪嘗胆と立志報復/ 劉備と曹操 (『三国志演義』) /
“keep a low profile(hide our capacity) and bide our time”

「日本の米軍基地と空母艦隊をミサイルの照準に入れておけば、米艦隊が自由に西太平洋に入れなくなり、日米安全保障条約を事実上、無力化できる」、「海軍力ですでに日本を超えた」(中国軍関係者)

A2AD/ SSN, SS, DF-21, DF-25-ASBM, DD+Sunburn, H-6+DH-10, Su-30MKK, Su-33KK, J-11A/B,

北東アジアとインド洋をつなぐ戦略的な海域で海洋権益を守る。

cf. 失地回復ナショナリズム (「報怨雪恥」)

近海防御 (2000 年) → 「第一列島線」 (2010 年; 沖縄) → 第二列島線 (2020 年; グアム)
→ 太平洋とインド洋 (2040 年) → 米海軍と対等な海軍の建設
中国海軍の主要任務: ①本土防衛、②台湾侵攻 (A2/AD)、③SLOC 防衛→艦隊/ 空母
「第一列島線」から「第二列島戦」/ 「戦略的辺境 (海洋国土→核心利益)」の拡大。
海洋戦略: 「戦略的辺境」と「戦略的通路」を防衛。

「人民解放軍政治工作条例」(2003 年): 「三戦」; 「輿論戦」、「心理戦」、「法律戦」

村井友秀 (防衛大教授)